

# 横須賀市中小企業景況レポート

第 46 号 ( 令和 6 年 4 月号 )

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課  
〒238 - 8550 横須賀市小川町 11  
電話 046 - 822 - 9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行っている景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団がさらに追加調査しました。

3 か月に 1 回発行しています。

【市ホームページからもご覧いただけます。】

[横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市](#)

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html>

調査対象：市内中小企業

調査企業数：160 社 (うち、かながわ信用金庫 + 湘南信用金庫 調査 144 社)

調査期間：前期・・・令和 5 年 10 ~ 12 月の景況感 (調査時点 令和 5 年 12 月 1 日)

今期・・・令和 6 年 1 ~ 3 月の景況感 (調査時点 令和 6 年 3 月 1 日)

次期・・・令和 6 年 4 ~ 6 月の景況感 (調査時点 " )

調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り

業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業

集計方法：D I 値算出による (次ページに D I 値の説明あり)

## 景況及び 4 項目の調査結果 (全業種)

\* D I 値調査結果は裏面に記載

\* 【 】は今期の D I 値を記載

全業種の景況感は、前期の 7 P から 12 P 低下し、【 5 P 】となりました。

今期の景況感は、不動産業【17 P】は 17 P 向上しましたが、卸・小売業【 13 P】は 19 P 低下し、製造業【 6 P】、建設業【 8 P】、サービス業【 3 P】はそれぞれ 9 P、14 P、12 P やや低下しました。

項目別では、売上額【 0 P】、収益【 6 P】がそれぞれ 8 P、6 P やや低下しましたが、その他の項目は横這いの状況です。

昨年同期 (令和 5 年 1 月 ~ 3 月) との景況感比較は、今期構成比【 1 P】で、前期構成比【 7 P】と比べ、8 P やや低下しました。

円安や材料費高騰による収益への影響や人手不足による受注機会の損失の声が聞かれます。

DI 値・・・良い(多い)、変わらない(普通)、悪い(少ない)の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い(多い)等の構成比(%) - 悪い(少ない)等の構成比(%)を計算した値がDI 値となります。プラス値が大きいほど景況感が良く(好況)、マイナス値が大きいほど景況感が悪い(不況)と言えます。

このレポートは次の基準で景況感を分類しました。(マイナスは 表示)

向上 (15P以上)	やや向上 (6P~14P)	変わらない (5P~5P)	やや低下 (6P~14P)	低下 (15P以下)
↑	↗	→	↘	↓

## 業種別 調査結果と事業者の声

\* DI 値調査結果は裏面に記載

### (1) 製造業 景況感 【 6P <やや低下> ↘ 】 (前期比 9P)

前期と比べ、売上額【9P】、収益【9P】、雇員人員【32P】、資金繰り【13P】は、横ばいの状況です。

次期も、すべての項目で横ばいの見込みです。

#### 事業者の主な声

- ・材料費高騰の影響を受けており、円高にならない限り状況は変わらないと考えている。また、人材の高齢化が懸念材料で、後継者となる人材の育成に力を入れていく。
- ・売上は前年比横ばい。外注費などを抑制して経費削減を図り収益増加を目指している。


### (2) 建設業 景況感 【 8P <やや低下> ↘ 】 (前期比 14P)

前期と比べ、売上額【9P】、雇員人員【53P】、資金繰り【3P】は、それぞれ9P、8P、9Pやや向上しました。収益【6P】は横ばいの状況です。

次期は、収益がやや向上する見込みです。


#### 事業者の主な声

- ・材料の価格高騰を価格へ転嫁できない状況が多く、利益は縮小している。
- ・既存先からの紹介により、新規受注先が増加した。人手不足が課題であるが、改善されれば採算に合った事業展開を図ることができる。大口先からの人材紹介の話もあり、人手不足改善を期待。

(3) 卸・小売業 景況感 【 13P <やや低下>  】 (前期比 19P)  
前期と比べ、売上額【 6P 】は29P大幅に低下し、収益【 19P 】、資金繰り【 23P 】は、それぞれ19P、17P低下しました。雇用人員【 34P 】は横這いの状況です。  
次期は、雇用人員がやや向上する見込みです。


事業者の主な声

- ・運輸業の積荷制限が強まり、従来の8割程度しか積載できなくなった。また、運輸コスト増により配達契約料の値上げに幾度か応じ、利益が逼迫。
- ・コロナ感染症が5類とされて以降、人流が戻っているのを実感している。客数、売上共に7~10%アップしている。しかし、材料や工賃の値上げ、商品仕入れ価格も上がっており、売上額は上昇しているが経費も増加しており、利益率が安定するよう留意したい。

(4) 不動産業 景況感 【 17P <向上>  】 (前期比 17P)  
前期と比べ、資金繰り【17P】は7Pやや向上しましたが、その他の項目は横ばいの状況です。  
次期は、雇用人員が向上し、売上額、収益はやや向上する見込みですが、資金繰りは、やや低下する見込みです。

事業者の主な声

- ・駅前立地の物件は入居数が例年より増加しており、空室期間も少ない。市況感はやや上昇傾向。
- ・仕入れを進めている案件も複数あるが、すぐに売上に寄与するものではなく、賃貸収入をメインに売上を確保している。仕入れ実現後は早期販売に向けた販売活動を進めつつ、商品確保にも引き続き務める。

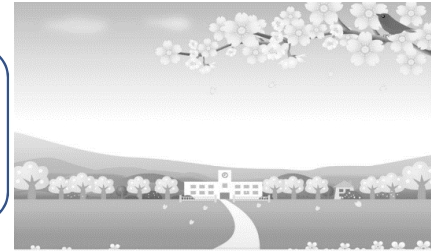
(5) サービス業 景況感 【 3P <変わらない>  】 (前期比 12P)  
前期と比べ、雇用人員【 40P 】が26P大幅に低下し、売上額【 3P 】は11Pやや低下しました。その他の項目は横這いの状況です。  
次期は、収益がやや低下する見込みです。

事業者の主な声

- ・AIが進歩している中、プログラムの自動生成ができてくるのではないかと、まだ人間の手が必要だが、将来的に事業形態の変化とともに雇用のあり方も変わってくるのではないかと、危機感を覚える。
- ・各地でのイベントも増加傾向であるが、慢性的な人手不足に悩まされており、対応に限界があるため現在以上の受注確保は難しい。

DI値 調査結果

前・・・前期 令和5年10月～12月の景況感（調査時点 令和5年12月1日）  
 今・・・今期 令和6年1月～3月の景況感（調査時点 令和6年3月1日）  
 次・・・次期 令和6年4月～6月の景況感（調査時点 令和6年3月1日）



業種別調査企業数(回答数)

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	157	34	36	49	10	28
今期	160	32	34	47	12	35
次期	160	32	34	47	12	35

(単位：ポイント)

項目	業種			全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況	景況全般について総合的な概況をお聞きしました。																				
良い(A)	25	21	25	24	16	16	28	24	35	24	21	21	10	25	25	29	23	29			
変わらず	57	53	52	55	62	59	50	44	47	58	45	49	80	67	67	57	57	51			
悪い(B)	18	26	23	21	22	25	22	32	18	18	34	30	10	8	8	14	20	20			
DI値(A) - (B)	7	5	2	3	6	9	6	8	17	6	13	9	0	17	17	15	3	9			
今 - 前 / 次 - 今	12	7		9	3		14	25		19	4		17	0		12	6				
売上額	製造業については、生産品を出荷した額をお聞きしました。																				
好転(A)	28	27	26	18	13	19	28	41	29	35	28	23	20	25	42	32	26	26			
変わらず	52	46	48	53	65	53	44	27	50	53	38	47	80	67	41	50	51	48			
悪化(B)	20	27	26	29	22	28	28	32	21	12	34	30	0	8	17	18	23	26			
DI値(A) - (B)	8	0	0	11	9	9	0	9	8	23	6	7	20	17	25	14	3	0			
今 - 前 / 次 - 今	8	0		2	0		9	1		29	1		3	8		11	3				
収益	売上から経費を引いた収益状況をお聞きしました。																				
増加(A)	20	22	18	12	13	9	19	26	24	22	17	13	20	25	33	25	31	20			
変わらず	60	50	56	64	65	69	59	42	52	56	47	53	80	67	59	57	43	54			
減少(B)	20	28	26	24	22	22	22	32	24	22	36	34	0	8	8	18	26	26			
DI値(A) - (B)	0	6	8	12	9	13	3	6	0	0	19	21	20	17	25	7	5	6			
今 - 前 / 次 - 今	6	2		3	4		3	6		19	2		3	8		2	11				
雇用人員	需要に対応できる労働状況をお聞きしました。																				
多い(A)	4	3	4	6	9	9	3	3	3	2	0	4	0	0	0	7	3	3			
適正	56	56	58	53	50	50	33	41	44	61	66	68	80	75	92	72	54	54			
少ない(B)	40	41	38	41	41	41	64	56	53	37	34	28	20	25	8	21	43	43			
DI値(A) - (B)	36	38	34	35	32	32	61	53	50	35	34	24	20	25	8	14	40	40			
今 - 前 / 次 - 今	2	4		3	0		8	3		1	10		5	17		26	0				
資金繰り	資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きしました。																				
余裕がある(A)	11	11	9	12	3	3	11	15	12	12	9	6	10	17	17	7	14	11			
支障がない	71	69	73	64	81	81	72	73	79	70	59	68	90	83	75	75	63	69			
苦しい(B)	18	20	18	24	16	16	17	12	9	18	32	26	0	0	8	18	23	20			
DI値(A) - (B)	7	9	9	12	13	13	6	3	3	6	23	20	10	17	9	11	9	9			
今 - 前 / 次 - 今	2	0		1	0		9	0		17	3		7	8		2	0				

参考 昨年同期と現在の景況感比較 (回答145社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「景況感」は良い(A)	32社	22%	27%
昨年と比べ「景況感」は変わらない、横ばい	79社	55%	53%
昨年と比べ「景況感」は悪い(B)	34社	23%	20%
DI値(A) - (B)		1P	7P

